

## わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(7月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎  
矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



### 『けんちゃんのもみの木』

美谷島邦子 文 / いせひでこ 絵 / BL出版

対象：幼児から高齢者まで



#### 内容のご紹介

日航機事故から36年。

母がつづった、かけがえのない命の重さを伝える絵本。

あの日 たくさんの星が山に降った… 1985年(昭和60年)8月12日、群馬県御巢鷹山に日航ジャンボ機が墜落、520人が亡くなる史上最大の航空機事故となった。

事故で9歳の息子を亡くし、心が迷子になってしまったお母さんは、くる年もくる年も息子に会いに山に登り、焼けただれた山の斜面にお父さんが目印に植えたもみの木を見守りつづけた。

もみの木は、悲しみを聞き、悲しみに寄りそい、35年で空にとどくような高さになった…。

空の安全を願い、ひたむきにいのちと向き合いつづけた母・美谷島邦子さん心の軌跡を綴った文に、絵本作家いせひでこさんが精魂をこめて絵を描いた絵本です。

参考文献:BL 出版紹介一部抜粋(矢祭もったいない図書館)

“けんちゃんのもみの木”を読んで36年前の上野村おすたか山の航空機事故を思い出しました。昭和60年8月12日の暑い夏でした。520人の犠牲者を出し生存者は、わずか4人でした。当時、原因は何かと思ったことがありました。御家族の皆様もたいへんつらい日々を過ごされたと思います。ほんとうに胸が痛む大事故でした。

9歳のけんちゃんは初めての一人旅でした。事故当時を思うといたたまれません。母親の美谷島さんは、事故現場に、お父さんが植えたもみの木の成長にけんちゃんの成長を重ねて、毎年、山に登りました。悲しみにより添い、子供の成長を見守ったのだと思います。

命の重さ、大切さを考えさせられます。この絵本も必読の一冊です。